

豊かな心と主体的実践力を育てる指導の工夫

－総合的学習指導の実践を通して－

糸満市立喜屋武小学校教諭 久 米 洋 子

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究の仮説	41
III	研究の全体構想	42
IV	研究の内容	
1	テーマについての基本的な考え方	
(1)	豊かな心	42
(2)	主体的実践力	
①	人間としての生き方・在り方を身につける道徳的実践力	43
②	主体的実践力の育成	43
(3)	「教える道徳」から「自ら学ぶ道徳教育」へ	44
2	実践に向けて	
(1)	全体計画・年間指導計画の作成の視点	45
(2)	総合主題構想	46
(3)	年間指導計画例	46
(4)	総合主題構想（図）	47
V	指導の実際	
1	主題名	48
2	主題設定の理由	48
3	本時の学習指導	48
4	実践後の分析と考察	49
VI	研究の成果と今後の課題	
1	成果	50
2	今後の課題	50

豊かな心と主体的実践力を育てる指導の工夫

—— 総合的学習指導の実践を通して ——

糸満市立喜屋武小学校教諭 久 米 洋 子

I テーマ設定の理由

これからの学校教育においては、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる心豊かな人間の育成が強く求められている。そのためには、「自主的に考え、自律的に判断し、決断したことは積極的にしかも誠実に実行し、その結果について責任をとることができる人間」を育てること。さらに「豊かな感性、繊細な心が人間や動植物、自然や社会に向かって広がりふくらんでいく豊かな心をもった児童」の育成が大切である。

本校においては、学校教育目標設定の方針として、知・徳・体の調和的発展を目指し、生涯学習社会でたくましく生きていくために自ら考え正しく判断し、自らを律しつつ実践していける道徳性の育成を重点として掲げた。

実践にあたっては、特別活動や日常の諸活動の中で、異学年間の交流やふれあいの場・機会を多く設定したり、栽培や清掃等の勤労活動、ユニセフ募金や緑の少年団等のボランティア活動、平和集会や学年集会等で生命尊重や思いやりの心の育成を図るとともに、できるだけ自分で考え行動させるように支援の工夫をしてきた。

しかし、年間指導計画の吟味、目標や方法に対する職員の共通理解が十分でなかったことにより、日々の実践が散発的なり、一貫性・関連性をもって計画的に行うことができなかった。また、児童理解の弱さや教材研究の不十分さから、題材の選定や教材教具の活用等が効果的にできず、道徳の時間において一人一人の内面に根ざした道徳的实践力が十分に育てられなかった。そのため、児童の実態として、自分の損得に関わることには敏感に反応するがそうでないことには無関心。言われたことはやるが、言われないことはやらない。いちいち指示しないと行動に移れない。みんながやるから自分もやる、など、「豊かな心」も「主体的実践力」もまだまだ身についていない状態となっている。このような現状を踏まえたとき、目指す児童を育成するためには、今までの道徳教育を反省し改善していかなければならないことを痛感した。

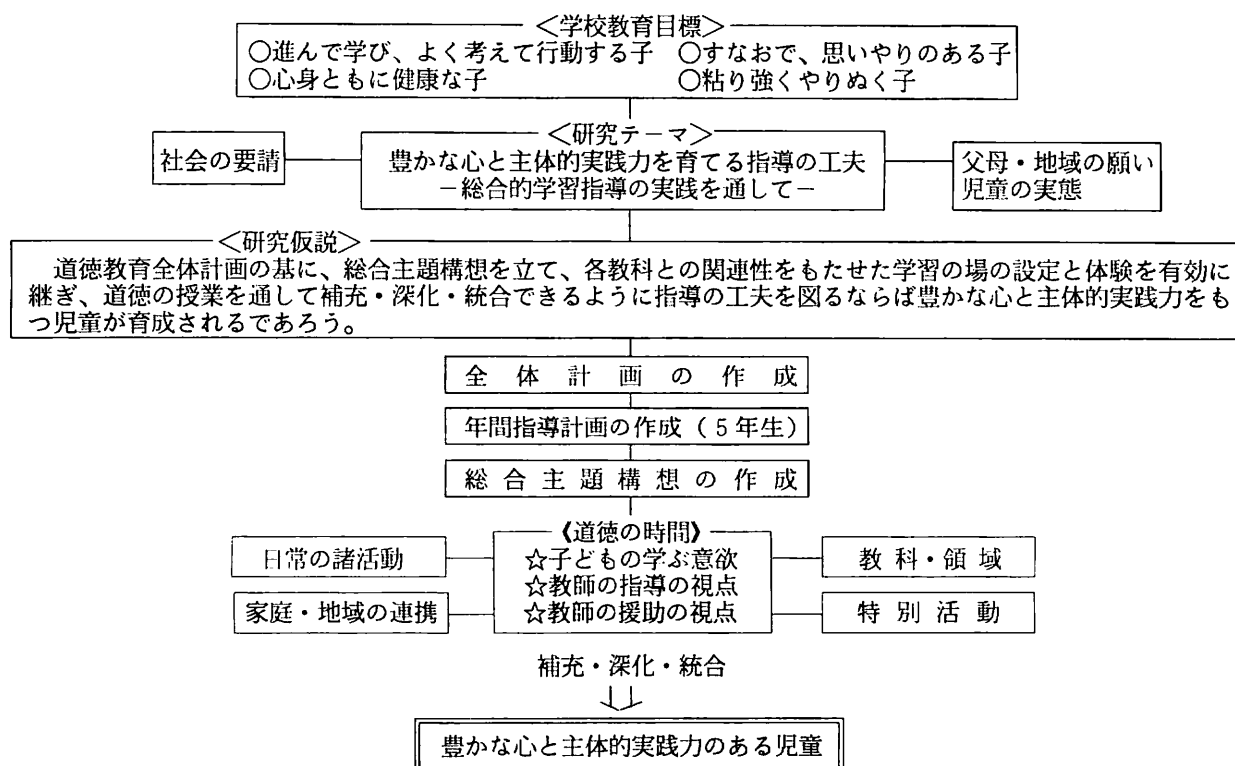
そこで、改善の視点を (1) 道徳的实践力を培う道徳の時間の充実 (2) 道徳の時間と他領域との関連を図る道徳教育 (3) 学校と家庭や地域社会との連携の上に立った道徳教育の実践、の3点におき、「教える道徳」から「子どもが自ら学ぶ道徳」へと教師の意識の転換を図り、子どもを主体とした道徳教育を目指すことにした。

そのためには、まず学校の実態を基に道徳教育の全体計画を見直し一貫性のあるものにする。それから全教育活動の中で関連性をもたせた計画を立てやすいように、総合主題を入れた年間指導計画を作成する。それを基に総合主題構想を立て、計画的に指導したり学習や体験をさせたりする。そして、道徳の時間で補充・深化・統合させるように指導の工夫を図るならば、「豊かな心と主体的実践力をもつ児童の育成」につながるものと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

道徳教育全体計画の基に、総合主題構想を立て、教科・領域との関連性をもたせた学習の場の設定と体験を有効に継ぎ、道徳の授業を通して補充・深化・統合できるように指導の工夫を図るならば豊かな心と主体的実践力が育成されるであろう。

Ⅲ 研究の全体構想



Ⅳ 研究内容

1 テーマについての基本的な考え方

(1) 豊かな心

人間は自分の可能性を最大限に伸ばしたいと考え日々努力をしている。その中で様々な障害にぶつかるがそれを乗り越えていくには強い精神力と冷静な判断力が必要である。乗り越えていったとき充実感を覚えるとともに自信につながる。それが人間の心にゆとりと落ち着きをもたらし、心の豊かさへとつながる。人間の持つ豊かな感性、繊細な心が人間や動植物、自然や社会に向かって広がりふくらんでいく心、すなわち、①感動する心②生命を尊重する心③思いやりの心④感謝や奉仕の心を豊かな心と捉える。

「道徳は心の教育である」といわれている。つまり、「豊かな心」を育むために道徳教育が中核的な役割を担っていかなければならない。

学校教育においては、子どもたち一人一人が人間のもつ価値ある精神活動(=心)を充実させ知、情、意の諸側面を調和的に発達させて、それらを包み込んだ人間らしい豊かな心を育ていけるように道徳教育が核となって展開されていくのである。

その際、次の点に留意する。

- 子どもの成長を肯定的に捉える
- 主体的な関わりが豊かにもてるように支援する
- 道徳的实践力を支える内なる力を育てる(道徳の時間における道徳的価値の自覚を深める指導の重視)
- 豊かな心を育む環境づくりの推進(校内・教室・家庭・地域の空間的環境、人間関係等の人的環境)

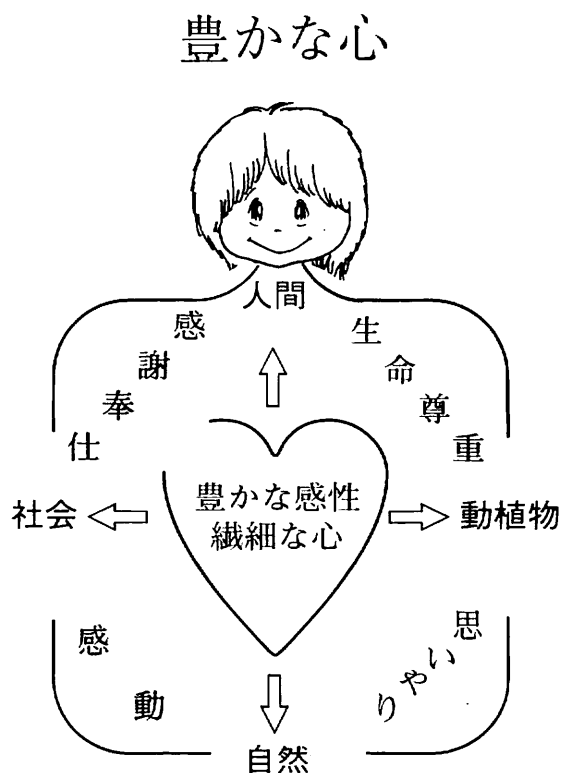


図1 豊かな心

(2) 主体的実践力

① 人間としての生き方なり方を身につける道徳的実践力

道徳教育の一層の充実を図るための最大の課題は、道徳の時間に培われる「道徳的実践力」を具体的な日常生活の場にどう生かし、実践するかという「道徳的实践」にまで高めることである。

学校教育においては、その育成を図るため日々努力している。しかし現状では、道徳的知識・判断・心情が現実の場面に裏付けられていないために、道徳的判断ができなかったり実践に結びつかなかったりすることが多いことから、その育成がまだ十分図られているとはいえない。

道徳的実践力を高めるためには、道徳的実践を支える「内なる力」の育成を目指し、道徳的価値の自覚を深める指導が重要である。

「内なる力」を育てるには実践の場を豊富に設定することである。できるだけ多くの場面に直面させ、現実の体験にもとづいた指導を深める。そうすることによって、子どもたちは実際に感じ、考え、苦しむ、喜び、耐えるなどの「さしせまった緊張感」を味わうことができる。そこから、道徳的心情が鍛えられ、培われるとともに道徳的実践力を高めることになる。

では、この道徳的実践力が主体的なものになるにはどうすればよいのであろうか。

② 主体的実践力の育成

主体的実践力を育成するためには主体性を確立することである。主体性のある人間とは、自主的に考え、自律的に判断し、決断したことは積極的にしかも誠実に実行し、その結果について責任をとることができる人間をいう。

したがって、主体的実践力を育成するためには、まず、「自主・自律」の精神を育成しなければならない。そのためには、学校と家庭が協力し合って指導の工夫を図っていくことが大事である。親は、「認める」「ほめる」「愛する」「叱る」を上手に使い分け、子どもを伸ばすようにする。時には、毅然とした態度や行動も大切である。

教師は指導するにあたって次の点に留意する。

- ・児童の考え、判断、企画による行動によって生ずる失敗を恐れず励ますこと。
- ・児童の自主的行動の結果としての「できばえ」を気にしないこと。
- ・児童の意見の出し方やその展開の仕方を冷静に見つめ、最低限の方向づけをすること。

また、自主性は、自ずから身につくものではなく、親や教師に依存しながら徐々に育成されていくものである。したがって、自主性が健全に発達するためには、児童にとって適度な依存欲求を満たしてくれる対象が存在することが必要になり、それは親や教師であると考えられる。親や教師はそのような存在であることを自覚して、価値観や道徳性をきちんと身に付け、アドバイスや支援など、子どもの主体的実践力を促せるようにならなければいけない。

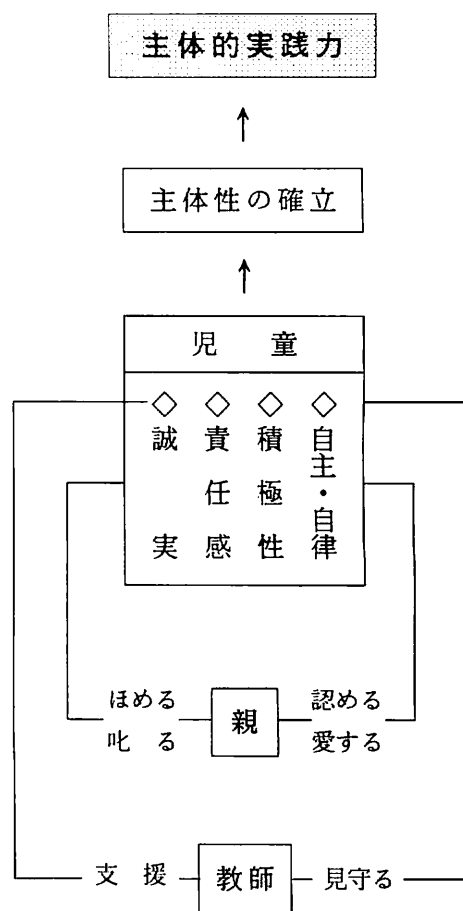


図2 主体的実践力の育成

—— 主体的実践力を育てるための留意点 ——

① 「実践力を育てる」学校経営

☆重点目標で実践への指針を示す ☆重点目標達成に向けての分掌組織の明確化 ☆校内研究体制の整備 ☆「実践力を育てる」教育に向けて家庭地域連携の協力を求める

② 「実践力を育てる」実践の場と方法の工夫

☆「実践力を高める」教育課程の編成 ☆道徳指導の重点化 ☆指導法の充実を図る校内研究体制の確立 ☆「実践力を育て、高める」学級経営 ☆「実践力を育てる」教師の働きかけ

(3) 「教える道徳」から「自ら学ぶ道徳へ」

道徳における「自ら学ぶ力」は、子どもが自分の変容に気づき、友と共に伸びよう、人と共によく生きようとする力であり、①道徳的实践力を培う道徳の時間の充実 ②道徳の時間と他領域との密接な関連を図る道徳教育 ③学校と家庭や地域社会との連携強化の上に立った道徳教育について次のように視点を明確にして計画的に指導し、実践させていくことによって育成され则认为る。

① 道徳的实践力を培う道徳の時間の充実		
<教師の援助の視点> ○児童理解(子どもの実態把握) ○資料分析 ○学習指導要領の指導内容の分析 ○道徳の時間における指導の工夫 ○評価	<子どもの学ぶ意欲> ・自分の考え方や行為を見つめ、よりよい自分に高めようとする願いがもてる。 ・追求しようとする価値内容を自分のこととして学べる。 ・自分の願いの実現に対する見通しがもてる。	<教師の指導の視点> ○個々の子どもへの援助の視点を明確にする ○子どもの多様な価値観を生かすための資料分析 ○子どもの実態と発達課題からみた指導内容の分析 ○子どもが自分のこととして学び、考えを深めていくための道徳の時間の指導の多様化 ○子どもが自らの伸びを確かめられる自己評価

② 道徳の時間と他領域との関連を図る道徳教育	③ 学校と家庭や地域社会との連携を図る道徳教育
<視点> ・内発的動機づけを基盤にした学ぶ意欲 ・望ましい道徳性と育成を図る発達課題 ・子供の意識の連続を図った主題構想の多様化 ・子どもの感じる力を育てる豊かな体験 ・子どもの援助をする教師の在り方	<視点> ・家庭や地域社会を援助する学校の教育力 (子どもの見方や叱り方、子どもの人間関係等についての情報提供) ・家庭や地域社会の教育力の活用 (地域の施設、人材、自然環境、伝統的・文化的行事)

授業実践においては、上記に掲げた視点をもとに次のように指導の工夫を図った。

① 道徳の時間の工夫

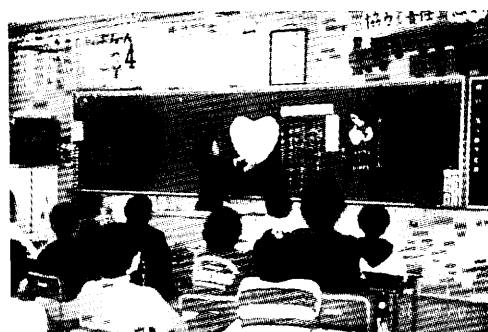
- ・児童の意欲を喚起する導入のためのビデオ編集(児童の赤ちゃんの頃の写真)・BGM(12の誕生日)
- ・意欲を高める事前調査(生い立ち新聞作りのために成長過程における様々なできごとの取材)
- ・掲示資料(胎児がお腹にいるお母さんの絵、命名の意味を確認させるハートの絵と言葉のカード)
- ・〃(胎児の重さを量感として捉えさせるための秤、辞典)
- ・〃(胎児の重さを実感させるための胎児人形、ゆりかご)
- ・視聴覚機器の活用(導入、終末)
- ・自己を見つめる手立て(発問、助言)
- ・内面化を図る終末(親の願いを録音)

② 道徳の時間と他領域との関連

- ・身近な題材の選定(わたしの誕生)
- ・関連教科の選定(郷土愛育成につながる教科・単元)
- ・意識の連続を図る教科の流れの工夫
- ・体験の場の設定の工夫(新聞作り、三線作り、三線の練習) 意欲を高めるための道徳学習の工夫
- ・意識を高め、持続させる教師の援助の工夫(授業や体験の場における支援、家庭との連携呼び掛け)

③ 学校と家庭・地域の連携

- ・親の愛情に気付かせるための連携の工夫(取材協力、声の録音)
- ・親子のふれあいを図る(授業参観における親子お守り作り、父親との三線作り)
- ・生命尊重、感謝の心の育成(押し絵のプレゼント、13祝いの会実施)





親子お守り作りの様子（お母さんと共に）



押し絵作りの様子（家庭との連携）



13祝いでカンカラ三線の演奏（地域との連携）



お母さんの願いが伝わり、押し絵に手に喜ぶ子どもたち

2 実践に向けて

(1) 全体計画・年間指導計画の作成の視点

「豊かな心・主体的実践力の育成をめざす道徳教育」を実践するために全体計画、年間指導計画の作成にあたって次のような視点をもった。

	視 点	理 由
全 体 計 画	①各領域の指導内容を明確にする。	道徳の時間では、計画的発展的な指導を通して、他領域で行なわれる道徳教育を補充・深化・統合する役割をもつものであるから、この役割を十分発揮するために、各領域などで指導が期待される道徳教育の内容を明らかにする。
	②学校環境整備方針を明確にする。	充実、整備された環境は教育の成果を大にする。“心を育てる”道徳教育においてはきわめて重要である。
	③学校と家庭・地域社会との連携方針を明確にする	学校側からの一方通行でなく、相互に理解し合う手立て、相互に役立つ活動などの具体方法を工夫する。
年 間 指 導 計 画	①総合主題を考え学年のねらいが適切に配列できるように工夫する。	学校教育目標達成に迫る道徳性の育成内容や学校行事、あるいは学年行事などから総合主題を考え、教科・領域との関連を工夫する。

(2) 総合主題構想

道徳教育は全教育活動を通してなされるものであり、道徳の時間は、各教科や特別活動における道徳教育を補充・深化・統合されるものとして設置されている。したがって、道徳は総合的な学習が基本であると考えられる

豊かな心の育成は、道徳教育のみでなくあらゆる教育活動の中で行なわれなければならない。「心の教育を豊かにする学習」「心の動きを豊かにする学習」「道徳的価値の自覚を深める学習」を相互に関わりをもたせて実践させる指導の工夫が必要である。

その一方法として総合的な学習が考えられる。

そこで、道徳の時間の学習に総合的な学習の視点を取り入れ、構想していくことが豊かな心と主体的実践力の育成に有効な手段であると考え、「総合主題構想」を取り入れた。

構想の際重視する視点や留意点を以下に掲げる。

＜道徳を主体にした総合的な学習構想の視点＞

- 学年・学級目標との関連
- 各教科・特別活動等との関連
- 学校・学年行事等との関連
- 道徳の時間における構想

＜総合的な学習の留意点＞

- ☆道徳を主体とする総合的な学習の着想は、その中核に道徳の時間の学習をおく。
- ☆道徳を主体としない学習においても、道徳の視点を必ず構想の中に位置付けておく。

以上のことを踏まえて、本研究では地域に伝わる「13祝い」を学年行事として着目し、総合主題構想を立てることとした。

まず、社会科「伝統に生きる工芸－郷土の伝統工芸品作り」の単元でカンカラ三線を作り始め、図工の時間に仕上げることによって、工芸品作りの難しさを体験するとともに、粘り強くやりぬく態度を育てる。作った三線を使い、合同の「13祝い」や「老人ホーム」で演奏することにした。三線の作成や練習する中で「郷土愛」。「13祝い」にちなんだ「生い立ち新聞作り」を通して「生命尊重」と「家族愛」「13祝い」の会を実施するにあたって「役割や責任感」。「家族愛」から発展して「父母、祖父母」への敬愛」そして、「勤労や社会への奉仕精神」を培うために「老人ホームの訪問」を取り入れた。学級通信による家庭との連絡、道徳の授業参観、親子お守り作り、母親による押し絵作りなどを12月から2月にかけて一連してできるように計画した。

実践に当たって、授業の確保を図るとともに、3ヶ月と長期にわたっているので児童の意識の連続化を図る工夫がなされなければならない。本構想ではできるだけ各教科の授業時間内で確保するようにした。調査や作成などで時間が足りない児童は、家庭との連携を図り、課外（家庭学習や親子製作等）で補った。

(3) 年間指導計画例（5年生の12月～2月）

月	総合主題	ねらいとする道徳性	主な行事	教科	道徳	特別活動	課外	家庭連携
12	地域の文化にはこりをもち、よりよく生きよう	・郷土愛 ・生命尊重 ・家庭愛 ・不撓不屈	2学期 終業式	社会「伝統に生きる工芸」 わたしたちも伝統工芸をつくろう 国語「調査したことを」 (沖縄の伝統工芸・文化等)	資料名 「湛水親方」 「命」 「わたしの誕生」	・「命の連続性」	・沖縄の伝統や文化について調べる ・自分の生い立ちについて調べる	・取材協力 (13祝い由来) (生い立ちについて)
1		・家庭愛 ・父母、祖母への敬愛 ・郷土愛	3学期 始業式	図工「カンカラ三線作り」 音楽「日本のふし」 (沖縄の音楽) 図工「親子お守り作り」	資料名 「世界で一番おいしい夕食」 「かみなり」	・13祝いの計画	・カンカラ三線の練習	・カンカラ三線作りの協力(父親) ・13祝いの計画(母親)
2		・郷土愛 ・生命尊重 ・感謝 ・勤労 ・社会奉仕 ・思いやり ・責任感	学芸会 13祝い (5年生) 老人ホーム訪問 (5年生)		資料名 「東風園の人々」 「命いっぱい」	・老人ホーム訪問の計画 ・老人ホーム訪問	・カンカラ三線の練習 ・語り聞かせ	・押し絵作り ・子供の願い(母親) ・13祝いの余興練習 ・13祝いの会実施

総合主題構想 (13祝い集会を中心にして)

総合主題名	地域の文化にほこりをもちよりよく生きる	道徳	資料名「湛水親方」「命」「わたしの誕生」「世界で一番おいしい夕食」「かみなり」「東風園の人々」「命いっぱい」
		教科領域	社会「伝統に生きる工業」「国語「調査したことを」 音楽「日本縄のふし」 図工「カンカラ三線作り」特別活動「13祝いの計画・老人ホーム訪問の計画」 「老人ホーム訪問」 課外「13祝い集会」「わたしの誕生新聞作り」
		家庭・地域連携	調べ学習への協力(トッシー・13祝いの由来、生い立ち等)、親子工作(授業参観時に)、三線作り協力(父親)、三線練習(祖父母・地域の人)、13祝いの一品料理と余興(母親)、13祝いの会であいさつ(各区長)



V 指導の実際

1 主題名 命の尊さ (3 - (2) 生命尊重・4 - (5) 家族愛)

資料名 「わたしの誕生」

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、自他の生命を尊重し、家族を愛する児童を育てようとする内容項目「3 - (2)、4 - (5)」である。

自分の生まれた時から現在までに起こった主なできごとやその折々の家族の気持ち、自分の考え等をまとめた新聞づくりをさせた。その調査・作成を通して自分に対する父母を初めとする家族の思いに気付き、自分の存在感を再認識させた。それによって「自他の生命を大切にしようという心情の育成」を図るとともに、自分の誕生を喜び、自分を中心におきる事象によって一喜一憂する家族の愛情について考えさせ、「家族を愛する心情の育成」を図った。そうすることによって「自分を大切にいくこと」すなわち、「生命尊重」ひいては「人間尊重の精神」を育成すると同時にまた、家族の思いを知ることによって、自分は家族の愛情にどのように応えていけばよいかを考えさせることが「家族愛」の育成になる。

3 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

自分が生まれたころの様子から、家族の自分に向けられた愛情の深さに気づかせるとともに友達も同じように育てられてきたことを知ることによって、生命がかけがえのないものであることを自覚させ、自他の生命を尊重しようとする意識をもたせる。

(2) 授業仮説

- ① 友達の作文を聞いたり発言を聞き合ったりすることで自分の考えが深まり、内面に根ざした道徳性（「生命の大切さ」と「家族への感謝の心」）が育成されるであろう。
- ② 自分の成長課程を調査させるにあたって「自ら学ぶ学習」となるような支援の工夫をしたり、子ども自身の写真や親の声等、身近なものを資料として活用するなどの工夫をすることによって児童の関心意欲を高め、主体的実践力が育成されるであろう。

(3) 展開

過 程		学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入		1. 生まれたころの様子について話し合う。 ・写真（VTR）を見ながら	☆子どもたちは友達の幼い頃の写真を見て、感動していろいろ感想をもつ。この感動を大切にしたい。
展 開 前 段	気 づ く	A 児の発表を聞いて話し合う ・体重や大きさ ・命名 ・病気をしたときのこと	☆自分が生まれた頃の様子を体重・大きさ・命名・病気のことについて書いてあるA児に発表させ、手がかりにして話し合わせる。
	捉 え る	2. 「自分のことについて知らなかったこと」を親から初めて聞いたときの気持ちについて話し合う。 ・想像して ・B 児の発表を聞いて	☆自分の幼い頃のことについて、親から聞いて初めて知り感動したことであろう。この感動を話し合ったり、友達の発表を聞いたりすることで考えを深めさせる。
展 開 後 段	見 つ め る	3. 親の気持ちに応えるためにどうすればよいかを考える。	☆親の気持ちに応えさせるためにどうすればよいかを考えカードに書かせる。お母さんや両親へあてて書かせる。
終 末	高 め る	4. 親の願いを吹き込んだテープを聞く。	☆親の願いを吹き込んだテープを聞かせることによって、親の願いを真摯に受けとめさせる。

このようにほとんどの児童に変容のようすが同われ、道徳的心情の育成が図られていたことから、友達同士、意見を聞き合うことにより自分の考えを深めることができたことが分かった。

<授業仮説2の考察>

児童の赤ちゃんの頃の写真をビデオに編集し、BGMに「12の誕生日」を流し導入とした。自分や友達の幼い頃の顔に一生懸命見入る姿や照れているが満足そうな顔に十分感動している様子が同われた。授業の展開に入ると、「生い立ち新聞」作りのため自分の幼い頃について調査・取材してあったので、いつもはおとなしくてなかなか発言しない女子が進んで発表した。また、調査をすることによって自分が今までどんなに大事にされてきたかということについてほとんどの子が気付いており、新聞や感想の中に表れていた。母親に「親の願い」を録音してもらい終末に使った。親の真摯な願いを生の声で聴くことで児童の感動も高まった。

このような児童の変容から、総合主題構想を立て、ねらい、実施時期、教科・領域の関連、家庭・地域の連携、実施の流れ等を明確化することによって題材の選定指導の工夫を図ることは、豊かな心と主体的実践力の育成に有効な方法であることが分かった。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 学校の実態を踏まえ、教科・領域との関連、家庭・地域連携の方針等を明確にした全体計画を作成することによって、全教育活動における道徳教育の果たす役割が明確になってきた。
- (2) 自ら学ぶ道徳への転換を図ったことは有意義であった。
- (3) 道徳を核にした総合主題構想で児童の意識の連続化が図られ、内面に根ざした道徳性の育成をすることができた。
- (4) 事前の児童の調査活動や教材・教具の工夫により、生命に対する関心意欲を高めることができ、主体的学習態度の育成ができた。
- (5) 家庭連携により、父母の教育に対する意識が高まり、学校への協力体制が強化された。

2 今後の課題

- (1) 全教育活動における主体的な道徳性の育成
- (2) 内面化を図る道徳授業の継続研究
- (3) 家庭・地域との連携による道徳教育の浸透

<主な参考文献>

文部省	『道徳教育上の諸問題』	大蔵省印刷局	1988年
瀬戸 真・押谷由夫 編著	『道徳の解説と展開』	教育開発研究所	1989年
石川哨男・竹ノ内一郎 編著	『小学校新しい道徳と実践』	東京書籍	1990年
押谷由夫監修・香川県小学校道徳研究会 著	『子供が自ら学ぶ道徳教育』	東洋館出版社	1993年
家田哲夫・目賀田八郎 編	『表現力・実践力を育てる』	東洋館出版社	1993年
真仁田 昭 編集代表	『児童心理 5月号』	金子書房	1993年
筑波大学付属小学校初等教育研究会 著	『道徳「学ぶ力」を育てる授業づくり』	明治図書刊	1990年
渡邊達生 著	『道徳の授業 わたしの誕生』	図書文化	1990年
明治図書第二編集部 編	『道徳教育 9月号』	明治図書	1987年
尾方 篤 編集	『教職研修 '96 7月号』	教育開発研究所	1996年